

科目名	世界政治学 I (国際政治学)	科目分類	■ 専門科目群 □ 総合科目群	
			経済学部	□ 必修 ■ 選択
			□ 必修 □ 選択	
英文表記	International politics I	開講年次	■ 1年 □ 2年 □ 3年 □ 4年	
		開講期間	■ 前期 □ 後期 □ 通年 □ 集中	
ふりがな	いし かわ たけ いち	実務家教員担当科目	○	修得単位
担当者名	石 川 竹 一	実施方法	■ 対面のみ □ 遠隔のみ □ 対面・遠隔併用	
授業のテーマ	日本を取り巻く世界は変わったのである。ロシアのウクライナへの侵略とウクライナ国民の殺戮、イスラエルのパレスチナ住民殺戮、中国の台湾侵攻の脅威の高まり、北朝鮮の核開発等々、西洋政治思想を解き明かしながら、世界（国際）政治の現実を解き明かす。			
到達目標	ウクライナ等で起きている世界（国際）政治の実態が理解できるようになることにより、世界（国際）政治を理解する力を涵養する。			
授業概要	世界（国際）政治の現実を説明することを意図して生まれた西洋政治思想を理解するためには、政治思想とその思想が生まれた背景を知ることが必要である。その学習の基礎の上に立って、世界（国際）政治が過去どのような歩みを示し、地理、経済、社会、文化の背景の下で現在の形になったのかを学ぶ。ロシアのウクライナ国への侵略等のウェストフェリア体制を揺るがすようなリアリズムの時代において、リベラリズムは勝利することができるのか、世界（国際）政治はどこへ向かうのか、動乱の時代に、君はどう生きていくのか、考える。			
授業計画				
第1回	国際政治のあゆみ、			
第2回	国際政治のあゆみ、主権国家の誕生、判例研究：コソボ独立宣言事件			
第3回	国際政治のあゆみ、ナショナリズムと帝国主義の時代			
第4回	国際政治のあゆみ、第一次世界大戦、判例研究：ドイツ・オーストリア関税同盟事件			
第5回	国際政治のあゆみ、第二次世界大戦			
第6回	国際政治のあゆみ、冷戦、判例研究：旧ユーゴスラビア仲裁委員会			
第7回	国際政治のあゆみ、ポスト冷戦			
第8回	国際政治の見方、			
第9回	国際政治の見方、パワーと国益、判例研究：黒海境界確定事件			
第10回	国際政治の見方、対立と協調			
第11回	国際政治の見方、支配と従属、判例研究：ピノチェット事件			
第12回	国際政治の見方、規範と制度			
第13回	国際政治の見方、安全保障、判例研究：ハムダン事件			
第14回	国際政治の見方、国際政治経済、判例研究：マフェチニ事件			
第15回	国際政治の見方、国際政治における文化			
第16回	定期試験			
授業時間外の学習	毎日、新聞の一面を読んでおく。教科書の該当箇所を読んで、専門用語の意味等を理解しておくこと。前回講義に関する確認テストを行うので、しっかりと図書館などで復習しておくこと。(1.5時間程度)			
履修条件：受講のルール	私語は他の学生の迷惑になるので認めない。世界（国際）政治の実態を理解しようとする意欲。			
テキスト	国際政治学をつかむ、有斐閣、村田晃嗣他、			
参考文献・資料	平和政策（有斐閣、大芝亮、2006）、西洋政治思想史（佐々木毅、北樹出版、2009）			
成績評価の方法	課題読書のサマリーレポート10%、研究レポート10%、クイズ20%、試験30%、平常点30%、※出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験は受けることはできない。			
オフィスアワー	水曜日 12時10分～13時40分			
成績評価基準	秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)			
実務経験及び実務を活かした授業内容	国連条約機関本部に26年間勤務(12年間は事務次長)、数々の国際選挙・世界各国との政府間交渉・国際会議運営・国際機関の人事・管理・条約交渉など国際法執行のエキスパートである。国際政治学の真実を教授する。			
学生へのメッセージ	西洋政治思想から現代の世界（国際）政治を読み解くことによって現代の世界（国際）政治とそのような政治社会に生きていく自己が理解できるようになる。公務員志願者には受講を推奨。			